

# Japanese Art

# Theatre Guild

# Movie Posters

アート・シアター・ギルト

## ATGの映画ポスター展

2022年7月19日(火) - 8月27日(土)

開館時間：10:00 - 17:00 (入館は16:30まで)

休館日：日曜・祝日、8月12日(金) ~ 17日(水)

(ただし、8月7日(日)は開館)

会場：京都工芸繊維大学美術工芸資料館2階展示室

入館料：一般200円 / 大学生150円 / 高校生以下無料

- \* 京都・大学ミュージアム連携所屬大学の学生・院生は学生証の提示により無料
- \* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳または被爆者健康手帳を持参の方及び付添の方1名は無料(入館時、手帳を提示)
- \* 8月7日、8日はオープンキャンパスを開催いたします。当日の入館は無料です。

主催 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

企画 芦高郁子(京都工芸繊維大学大学院博士後期課程)

鯉沼晴悠(同大学院博士後期課程、美術工芸資料館技術補佐員)



1



2



3



4



アート・シアター・ギルト

# ATG の映画ポスター

## Japanese Art Theatre Guild Movie Posters

高度経済成長によって世の中が便利になった1960年代。一方では、やみくもな発展によって生じた矛盾や齟齬を背景に、様々な分野で先鋭的な表現活動が展開されました。映画もまた例外ではなく、テレビの普及に伴って商業主義に傾倒する日本の映画業界を危惧して、1961年に映画会社ATG(日本アート・シアター・ギルド)が設立されます。東和映画副会長の川喜多かしこによる「日本アート・シアター運動の会」を前身とし、東宝副社長の森岩雄や三和興行社長の井関種雄が賛同する形ではじまったこの団体が目指したのは、「芸術としての映画」を広く一般へ届けることでした。

初期には、フランス・ヌーヴェルヴァーグやポーランド派など、国外の芸術映画の配給に尽力し、中期からは大島渚や羽仁進など、国内の作家を起用した製作にも乗り出します。製作費をプロダクションと折半する「1000万円映画」という手法を用い、少ない製作費ながら、工夫を凝らして作られるATG映画には、映画のみならず、美術、デザイン、音楽、演劇など各分野で活躍する前衛の旗手たちが集うこととなりました。

今回の展覧会では、映画ポスターを切り口に、ATGの活動を紹介します。大島弘義、檜垣紀六、小笠原正勝など映画ポスター作家のほか、粟津潔や横尾忠則など戦後日本を代表するグラフィック・デザイナーによって制作されたポスターからは、1960年代の熱気とともに、活動を停止する1992年に至るまでの映画文化の展開を垣間見ることができます。

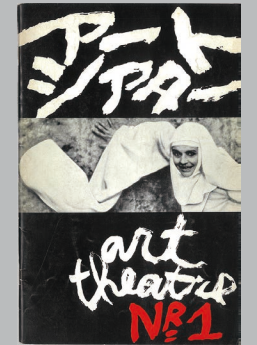
合わせて、映画パンフレットや会報誌などが作り出した言説空間にも注目します。これらには、監督を囲む座談会や批評家による作品解説のほか、鑑賞者から寄せられた批評文が掲載され、紙面上で論争が巻き起こることもしばしばありました。ただ映画を製作・配給するだけでなく、議論の場を作り出し、映画を見る眼を養うこともまたATGが重視したものでした。

京都工芸繊維大学美術工芸資料館は多くのポスターを所蔵しており、さまざまな切り口からそれらを展示公開していますが、今回は、ATGの映画ポスターをまとめた形でご覧いただく初めての機会となります。ATGが戦後日本の文化芸術に果たした功績の一端を示すことができれば幸いです。

1. 大島弘義《尾僧ヨアンナ》1962年(AN.5229-01) / 2. 朝倉暲《薔薇の葬列》1969年(AN.5229-47) / 3. 粟津潔《心中天網島》1968年(AN.5230-36) / 4. 檜垣紀六《ジャンヌ・ダルク裁判》1969年(AN.5229-48) / 5. 大島弘義《去年マリエンバードで》1964年(AN.5229-13) 6. 『アート・シアター』第1号 1962年4月(個人蔵) / 7. 『アート・シネマ・神戸グループ会報』第41号 1967年7月(個人蔵) / 8. 『アート・シネマ・大阪グループ会報』第21号 1964年11月(個人蔵)



5



6



7



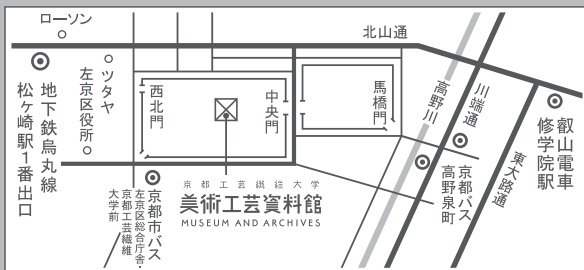
8

### お問い合わせ

京都工芸繊維大学美術工芸資料館  
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町  
TEL 075-724-7924 <https://www.museum.kit.ac.jp/>

### 交通

- ・京都市営地下鉄丸線「松ヶ崎」駅下車、徒歩約8分  
(「松ヶ崎」駅の出口1から右(東)へ約400m、4つ目の信号を右(南)へ約180m)
- ・京都バス「高野泉町」下車、徒歩約10分  
(橋を渡り川沿いに左へ約200m、コインパーキングの角を右へ約200m)
- ・叡山電車「修学院」駅下車、西へ徒歩約15分



### 当館の感染症予防対策の取組み

- ・お客様対応をおこなうスタッフはマスクを着用し、検温による健康チェック及び手指の消毒をおこなっております。
- ・受付には、飛沫感染防止用立てを設置しております。
- ・館内入口と一部展示室の窓を常時開放し、可能な限りの換気に努めております。
- ・多くのお客様が手を触れる箇所の定期的な消毒を実施しております。

### ご来館の皆様へのお願い

- ・発熱、せき、くしゃみ、臭覚・味覚異常など風邪の症状がある方や、体調のすぐれない方の入館はご遠慮くださいますようお願いいたします。
- ・マスクの持参・着用をお願いいたします。
- ・来館時に検温を実施いたします。  
37.5度以上の熱があるお客様は、ご入館をお断りいたします。
- ・団体での来館はお控えください。  
混雑状況に応じて、入館をお待ちいただく場合がございます。
- ・設置している消毒用アルコールで、手指の消毒をお願いいたします。
- ・ご入館の際に、氏名・連絡先等の記入をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。